

光配信の現状と課題 及び 取り組みについて



現状と課題

- 機器コストが高価
- RF系機器も必要
- 漏洩が少ない
- 高周波ロスがない
- 施工の専門性
- 取り扱い上の注意点多い

機器コストが高価

機器コストがRF系の機器と比較して、高価になってしまう。

⇒光関連のデバイスは部品レベルで高価

レーザーダイオード・フォトダイオード
・スプリッタ・パッチコード・コネクタ etc.

3

SUN ELECTRONICS CO.,LTD.

RF機器も必要

光伝送後（O/E変換後）のテレビへの接続はRF系での接続となるため、住戸内配線はRF系の分配器や壁面用テレビ端子が必要になる。

また、光伝送前（E/O変換前）にもRF系機器が必要になる。

4

SUN ELECTRONICS CO.,LTD.

漏洩が少ない

伝送路に光ファイバーを用いているため、光ファイバーからは電波漏洩は発生しない。

また、機器自体に不要放射の規格を規定しているものもある。

高周波ロスがない

伝送路に同軸ケーブルを利用すると同軸ケーブルの特性上、周波数の高い信号はより多く減衰する。光ファイバーを用いた伝送では、上記のような減衰は発生しない。

施工の専門性

同軸ケーブルを利用した施工に比べ、光ファイバーを利用した施工は一般的ではなく、また一般の施工業者では施工経験が同軸施工と比べ少ない。

⇒ある程度の専門性が必要なため
施工可能な業者が少ない

7

SUN ELECTRONICS CO.,LTD.

取り扱い上の注意点多い

同軸ケーブルを施工する上では気にすることがなかった、コネクタ端面のクリーニングや光ファイバーの取り回し、光ファイバーの融着など注意を要する点が多く、取り扱いをする上で同軸ケーブルと大きな違いがある

8

SUN ELECTRONICS CO.,LTD.

今後の取り組み

現在、BS・110度CS左旋信号を用いた4K・8K放送に対応するため、3.2GHz対応機器のラインアップを準備中